

うまくいってる？ 困りごとは？
聞かせて！ みなさんの
コミ協のお話



今年度も6つのコミ協に訪問ヒアリングを実施。活動実態や困りごと、取り組みの工夫についてお聞きしました。地域の実情を捉えて、前向きに進められている様子をご紹介します。

濁川コミ協のヒアリング



令和4年度地域コミュニティ協議会「持続可能な地域づくり支援事業」

かわらばん

連絡先 新潟市市民生活部市民協働課 TEL: 025-226-1105

ほかのコミ協は
どう進めているの？
コミ協どうしの学び合いで
より良い地域活動へ！



新潟市では令和3年度までの「コミ協育成モデル事業」の成果をもとに、令和4年度は「持続可能な地域づくり支援事業」として活動の見直し方法や事例を学ぶ研修会などを実施しました。今年度の取り組みをお伝えします。

研修概要はP.2.3

北区 濁川地区コミュニティ協議会

実効性が高く
参加を促すやり方へ転換

防災訓練を多世代、多様な団体と共同開催して活動の輪が広がった。また、自治会では「支え合いのしくみづくり」の担い手不足を役割分担で解消しようと取り組んでおり、コミ協ではモデル事例として支援し、今後参考にしながら課題解決にも生かす予定。



<R4.4.1現在> 世帯数 2,990世帯 自治会数 13

中央区 上所校区コミュニティ協議会

対話を通じて
活動や運営を常に進化

自治会を避難所単位でブロック分けし、会議などで生の声を聞き、コミ協活動に反映させている。女性の視点を各活動に活かせるよう組織を再編するなど、運営上の課題に迅速に対応している。



<R4.4.1現在> 世帯数 6,612世帯 自治会数 28

江南区 大江山地区コミュニティ協議会

住民ニーズを受け
買い物支援に注力

住民アンケートをもとに買い物支援に力を入れており、次の展開を検討中。数年前に従来の地域内組織の統合や整理などの再編を行い、活動しやすくなった。負担の偏りを減らすために、部会の活性化をめざす。



<R4.4.1現在> 世帯数 2,136世帯 自治会数 16

南区 月潟コミュニティ協議会

地域内の多様な団体と
協働で事業実施

担い手不足により、公民館や福祉系をはじめとする各種団体と連携して活動を実施。つながりを生かした「支え合いのしくみづくり」が令和4年度よりスタートし、支え合いの関係の見える化を進めている。県外地域との交流による物産販売も行っている。



<R4.4.1現在> 世帯数 1,218世帯 自治会数 8

西区 坂井輪小・小新中学校区まちづくり協議会

実状や課題が共通する
エリアごとに検討

広い地域を4ブロックに分け、会議によって地域情報を収集、各種団体と協力して活動を実施。令和4年度はまち協の役割を再確認したうえで活動方針を立て、取り組みや体制の刷新を検討し、新たな役員のもとで組織固めを進めている。



<R4.4.1現在> 世帯数 6,311世帯 自治会数 33

西蒲区 潟東地域コミュニティ協議会

活動や組織の見直し進行中

令和4年5月に会長と事務局長が交代。これまでの活動の進め方や組織運営のあり方を見直そうと動き出す。具体的な作業や手順も含めて洗い出して整理中。今後は地域内での意見交換の活性化に力を入れる予定。



<R4.4.1現在> 世帯数 1,678世帯 自治会数 15



熱気にあふれた全6回の研修会
のべ参加者数は244名！

令和4年夏にスタートした研修会では、毎回コミ協どうしの情報・意見交換を実施。ここ数年「会って話す・聴く」機会が少なかったこともあり、大いに盛り上がりました。どのコミ協も悩みながら知恵を絞って活動中です。それぞれの取り組みが互いに学びとなり、活動の見直しや課題解決を進める後押しとなりました。

市内
59コミ協が
参加



持続可能な地域づくり支援事業研修会<実践編・拡大版>の様子(2月17日新潟テルサにて)

～終了後アンケートより～
(感想や気づき)

具体的な事例は
とても参考になった



地域を良くしよう
という想いが
刺激になった

情報交換・共有が楽しくて
有意義だった

地域課題を
つかむことは
大切だ

考え方や
取り組みに共感でき
元気が出た



楽しみながら
目標達成に
頑張ろうと思った

各コミ協が
工夫して活動しているのが
よくわかった

コミ協どうしの意見交換では
取り組みの工夫や意気込みも
話されていました！


- 連絡手段にLINEを使うようになって、運営が円滑になった。
- 若者向けの事業で人材発掘を図っている

- 事業の棚卸しなど見直しを行う予定
- 女性をもっと登用していく
- 他団体との連携を進めたい

(一部抜粋)

令和5年度も研修会などの各種支援を行います。ぜひご参加ください！

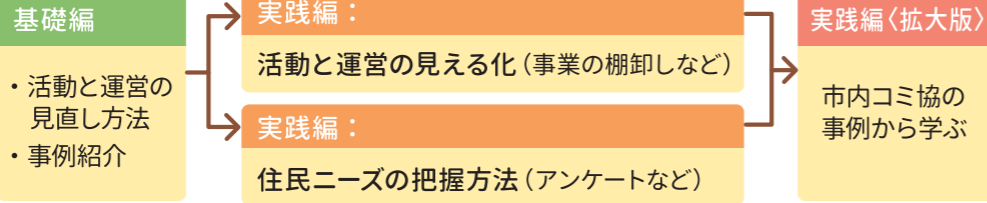
令和4年度持続可能な地域づくり支援事業の紹介 ～学び合う研修会とフォローアップ支援～

持続可能なコミ協運営
についての取り組みは
新潟市のホームページから
ご覧になれます。 → 

社会の変化や新型コロナウイルス感染症の影響により、これからの地域活動をどう進めていくか、見直す機運が高まっています。令和4年度は、活動の見直し方法や見える化などを学ぶ研修会や、複数のコミ協へ訪問ヒアリングを実施。情報共有やアドバイスをいたしました。



研修会 活動と運営の見直し方法の解説+コミ協どうしの学び合い



フォローアップ支援 個別ヒアリングおよびアドバイス

研修会

基礎編：活動と運営の見直し方法・事例紹介



基礎編(第1回)東区プラザ

令和1~3年度「コミュニティ協議会育成モデル事業」のモデルコミ協が実施した、見直しのための取り組み(勉強会・活動実態の見える化・住民ニーズの把握)を講義で紹介。参加者は区を超えたグループ分けで活動実態や課題、取り組みの工夫などを意見交換し、これからの考えるヒントになりました。

- 〈第1回〉令和4年7月28日(木) 参加者58名
 - 〈第2回〉令和4年9月21日(水) 参加者44名
 - 〈第3回〉令和4年9月22日(木) 参加者40名
- ※いずれも同じ内容

参加
コミ協数
合計 55

受講希望者が多く
実施回を増やしました!

実践編：活動と運営の見える化

- 令和4年10月5日(水)開催
- 参加者25名(参加コミ協数16)



- 現在の活動の量や内容を書き出して「見える化」する。表などに一覧化、数値化すると課題も改善方法も見つけやすい。
- 「見える化」すると情報共有や引き継ぎがスムーズになる。
- 担当者どうしが話し合いながら洗い出すと効果的。



実践編：住民ニーズの把握方法

- 令和4年11月7日(月)開催
- 参加者37名(参加コミ協数22)



- コミ協や活動を知ってもらうには、ニーズに応える活動や楽しめる活動が必須。
- 住民との雑談、つぶやきからもニーズは拾える。「要望」を深掘りして真の「ニーズ」を捉える。
- アンケートは世代別の集計や分析、実施後の対話が重要。



フォローアップ支援

松浜地区コミュニティ協議会と松浜自治振興会の合同勉強会

コミ協と自治振興会が両輪となり、地域活動を活発に進めてきた松浜地区。時代の変化に応じたより良い体制づくりを目指し、令和3年度から独自に「あり方検討会」を開催していました。市と専門家によるアドバイスのもと、令和4年10月に合同勉強会を実施。活発な意見交換でお互いの思いや考えを知ることとなり、今後の検討の後押しとなりました。



情報共有と意見交換は
大切だね!

実践編(拡大版)：市内コミ協の事例から学ぶ

3コミ協の事例発表&情報交換 コミ協どうしの学び合いがチカラになる

研修会最終回では市内3コミ協から、運営上の課題解決のために知恵を絞り、多様な団体と協力して行った取り組みや、組織のしくみが紹介されました。

グループごとの情報・意見交換では、各コミ協の状況や悩み、活動の工夫などが活発に話し合われ、学び合うことで気づきや考えが深まりました。

- 開催日時：令和5年2月17日(金)
- 参加者数：40名 参加コミ協数：23



研修会(実践編・拡大版)新潟テルサにて

組織は
時代に合わせた
自己変革が
必要

事務局長
村中正直さん



防災事業を見直し、
やるなら成功させる!
と多様な手段で
広報しました

濁川まちづくりセンター長
石川明子さん



濁川コミ協(北区)「活動の見直しと役割分担」

幅広い世代が楽しみながら学べる防災事業に変えたいと、自治協議会の事業「まなぼうさい」を取り入れ、中学生が中心となった体験型にして開催。各種団体とも協力し、防災意識の向上と顔の見える関係づくりにもつながった。

自治会による「支え合いのしくみづくり」では、リーダーの負担感を解消するため一人ひとりの主体性を生かすフラットな体制がつくられた。コミ協の課題解決モデルにしたい。

地域活動の必要性は
若い人たちに伝わるはず。
大切なことを引き継ぐために
活動していこう!

理事長
井出俊夫さん



木戸コミ協(東区)「地域のニーズ把握と課題への対応」

体制や規約をわかりやすく改善し、活動の三原則に「住民の安心・安全」「子どもたちの健全育成」「高齢者の楽しい老後に貢献」を掲げた。地域課題の解決を多様な団体と協力して徹底的に行い、「支え合いのガイドブック」は中学生の協力も得ながら作成した。

今後は、事業の見直しを行うとともに、地域活動の必要性を若い世代にも伝える取り組みを検討中。

つながる・巻き込む・みんなで
創る・みんなで楽しむで、
気持ちよく次にバトンを
渡そう

事務局長・庄瀬地域生活センター長
西山ゆきさん



庄瀬コミ協(南区)「若い世代と女性が活躍する工夫」

「明るい、楽しい、気軽、メリットがある、流行を取り入れる」方針で、地域資源を活かして若者や女性を積極的に巻き込んだ事業を展開。拠点施設を住民と居心地良くリニューアルし、新たな活動が生まれた。防災訓練は消防団と連携して訪問型に転換し、高齢者世帯の様子など地域の情報共有もできた。

「コミ協を地域のハブステーションに」と、住民どうしの関わりを増やしながらか地域課題解決に取り組む予定。

「地域活動補助金を利用した課題解決の取り組み」について資料で解説し、松浜コミ協(北区)、山の手コミ協(秋葉区)、坂井輪中まち協(西区)、角田コミ協(西蒲区)からも一言いただきました。



地域課題の解決は 「～ながら」で行う

どの事例でも共通していたのは「楽しさ」や「顔の見える関係づくり」。難しいと思われがちな課題でも「～ながら」で進めることで、人の輪が広がり、前に進むことが感じられました。

- 運営側も参加者(住民)も楽しみながら
- 人どうしの関係をつくりながら
- 地域内のさまざまな組織と協力し合いながら
- 地域にあるものを使いながら
- 楽しさも負担も分かち合いながら
- やり方を見直しながら

